

2026年6月26日

## 台湾の輸出受注は引き続き半導体がけん引役に(Asia Weekly)

～中国本土やアジア新興国向けは鈍化も、米国や欧州向けは旺盛な動きが続く～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/23(火)	(シンガポール)5月消費者物価(前年比)	+1.8%	+2.0%	+1.8%
	(台湾)5月輸出受注(前年比)	+47.2%	+48.7%	+48.1%
	5月失業率(季調済)	3.32%	--	3.34%
6/24(水)	(オーストラリア)5月消費者物価(前年比)	+4.0%	+4.3%	+4.0%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.00%	1.00%	1.00%
	(台湾)5月鉱工業生産(前年比)	+11.78%	--	+14.94%
6/25(木)	(オーストラリア)5月失業率(季調済)	4.4%	4.4%	4.5%
	(タイ)5月輸出(前年比)	+10.6%	+12.0%	+23.1%
	5月輸入(前年比)	+35.1%	+35.0%	+45.0%
6/26(金)	(シンガポール)5月鉱工業生産(前年比)	+13.0%	+17.2%	+16.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [台湾]～半導体など電子部品関連を中心に、輸出受注は引き続き旺盛な動きが続いている～

23日に発表された5月の輸出受注額は前年同月比+47.2%となり、前月(同+48.1%)から伸びが鈍化した。前月比は+0.53%と前月(同▲4.20%)から2ヵ月ぶりの増加に転じるなど一進一退の動きが続いているものの、中期的には拡大基調を維持しており、堅調さがうかがえる。財別では、化学製品関連や縫製品関連の受注は伸びが鈍化しているものの、主力輸出品である半導体など電子部品関連に加え、IT関連の受注も堅調であり、全体を支えている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けやASEANなどアジア新興国向けの受注は伸びが鈍化しているものの、米国向けや欧州向けは堅調に推移しているほか、日本向けも底堅く推移しており、受注全体を下支えしている。

同日に発表された5月の失業率(季調済)は3.32%となり、前月(3.34%)から0.02pt改善した。失業者数は前月比▲0.1万人と、前月(同▲0.1万人)から2ヵ月連続で減少しており、中期的にも減少基調で推移している。新卒、既卒を問わず全般的に失業者数が減少しているうえ、非自発的失業も減少基調にある。一方、雇用者数は前月比+0.5万人と、前月(同±0.0万人)から3ヵ月ぶりの増加に転じており、中期的にも増加基調を強めるなど、持ち直しの動きがみられる。業種別

では、製造業で引き続き雇用調整圧力がくすぶるものの、公益関連や建設業関連に底堅い動きがみられるほか、サービス業における雇用拡大が下支え役となっている。労働力人口も前月比+0.3万人と、前月（同▲0.1万人）から3ヵ月ぶりの増加に転じている。労働参加率は59.59%と3ヵ月連続で横ばいとなっており、高水準で推移している。

24日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+11.78%となり、前月（同+14.94%）から伸びが鈍化した。前月比は+1.55%と前月（同+0.93%）から4ヵ月連続で上昇しており、中期的にも拡大基調を維持するなど、持ち直しの動きが続いている。分野別では、電気機械関連や輸送用機械関連のほか、化学製品関連や縫製品関連の生産に調整の動きがみられる。一方、主力輸出品である半導体など電子部品関連の生産は好調な推移が続いているほか、金属関連や石油化学製品関連の生産も堅調に推移しており、生産全体を下支えしている。

図1 TW 輸出受注の推移

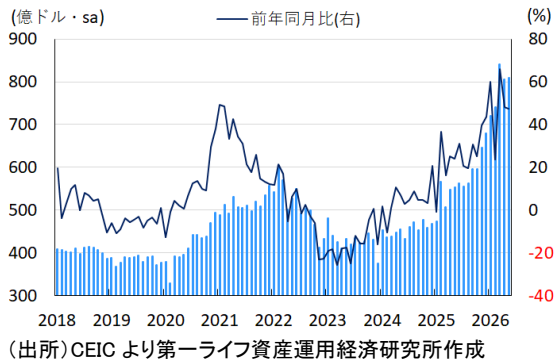


図2 TW 雇用環境の推移

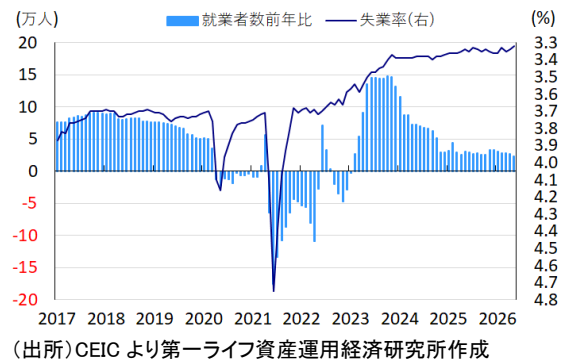
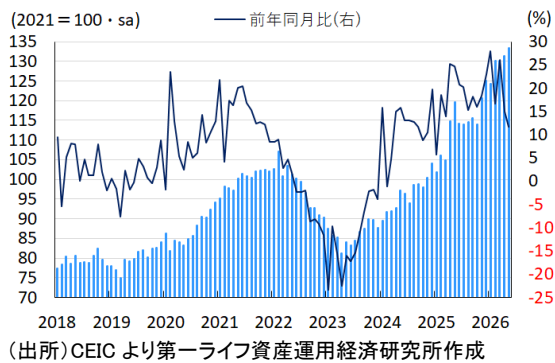


図3 TW 鉱工業生産の推移

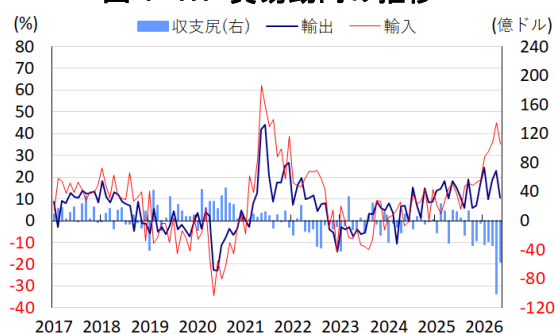


**[タイ]～輸出入ともに持ち直しの動きに一服感、供給懸念を反映して原油輸入は大幅に減少～**

25日に発表された5月の輸出額は前年同月比+10.6%となり、前月（同+23.1%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きは一服している。種類別では、世界的なAI関連投資の旺盛な動きを追い風に、半導体など電子部品や機械製品、自動車など輸送用機械といった製造業関連の輸出が堅調に推移する一方、コメをはじめとする農産品や農業加工品関連の輸出は伸びが鈍化している。一方、輸入額は前年同月比+35.1%となり、前月（同+45.0%）から伸びが鈍化した。当研究所の試算による季節調整値に基づく前月比も11ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きは一服している。輸入品目別

では、輸出の底堅さを反映して機械製品など資本財関連の輸入は底堅く推移しているものの、中東情勢の緊迫化を受けた供給懸念を背景に原油輸入が減少したほか、消費財関連の輸入も力強さを欠いている。その結果、貿易収支は▲57.11億ドルと前月（▲100.21億ドル）から赤字幅が縮小した。

図4 TH 貿易動向の推移



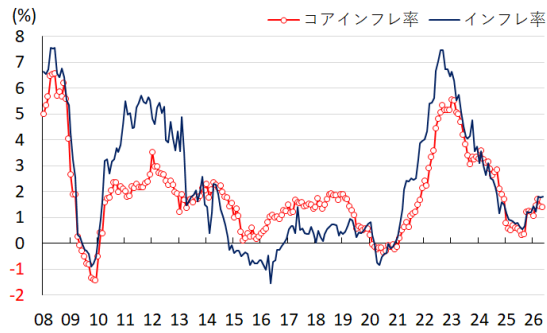
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

### [シンガポール]～インフレ率は3ヵ月連続の横ばいで推移、生活必需品の物価の動きにばらつき～

23日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月（同+1.8%）から3ヵ月連続で同じ伸びで推移している。前月比は+0.75%と前月（同▲0.34%）から2ヵ月ぶりの上昇に転じた。中東情勢の緊迫化を受けた原油高によるエネルギー価格の上昇には一服感がみられる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇が続いており、生活必需品の物価動向にはばらつきがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.4%となり、前月（同+1.4%）から2ヵ月連続で同じ伸びで推移している。前月比は▲0.01%と前月（同+0.15%）から4ヵ月ぶりの下落に転じた。エネルギー価格の上昇一服を受けて輸送コストの上昇圧力が後退したことに加え、金融市場ではSGドル相場の調整が進んでいるものの、主要貿易相手国通貨を加味した名目実効為替レートは横ばいで推移していることから、輸入インフレは抑えられている。このため、財価格は総じて落ち着いた推移をみせている。一方、景気の先行き不透明感の高まりを受けてサービス物価には下押し圧力がかかっており、全体としてインフレ圧力は抑えられている。

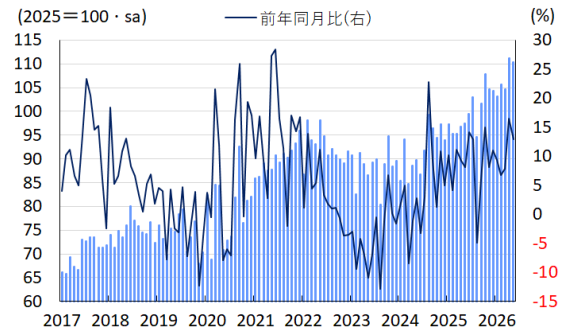
26日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+13.0%となり、前月（同+16.5%）から伸びが鈍化した。前月比は▲0.73%と前月（同+6.24%）から2ヵ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の展開となっているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持しており、底堅さがうかがえる。同国では、バイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく変動し、生産全体の動向を左右する傾向がある。当月は同部門の生産が前月比▲3.61%と前月（同▲39.81%）に続いて2ヵ月連続で減少し、頭打ち感を強めている。一方、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+1.55%と前月（同+2.59%）に続いて4ヵ月連続で拡大しており、持ち直しの動きが強まっている。石油化学関連や機械製品関連を中心に生産拡大が確認されており、堅調な輸出が生産活動を下支えしていることがうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上